

フェズ

ゆるやかな時の流れに人生の歩き方を知る

中世が現代にタイムスリップしたモロッコの古都

リン・ウイドマン

快適で遊びのいっぱいある場所なら、ほかにいくらでもある。ここには一流の劇場もなければ、高級レストランもない。有名校も大病院もない。気候も、夏は焼けるような暑さだ。

しかも、美しいものはみな、つつましく身を隠している。女たちはベールで顔を包み、珠玉の建造物は路地裏に隠れ、モスクは異教徒を寄せつけない。フェズは、なかなか素顔を見せない町だ。

それでも人は、まず異国情緒に魅せられる。モスクの尖塔から祈りの時を告げるアザーンが流れ、モザイクで飾った宮殿は地元の名物料理を供す。ミントティーがあり、ベリータンスの踊り子がいる。

環境技師の齊藤貢（38）は、海外青年協力隊の一員としてフェズに来た。任期は2年、仕事は9世紀そのままの下水道とゴミ処理施設の近代化に手を貸すこと。だが齊藤は、仕事以前にこの町に魅了されてしまった。

「ここへ来て目が覚めた」と、彼は言う。「モロッコの人々から多くを学び、私はすっかり変わった」

齊藤の住まいはメディナ（旧市街）の中心部にある美しいタイル張りの古い家。数人のモロッコ人と同居しているが、冷蔵庫も洗濯機も、電子レンジも炊飯器もない。「そんなものはなくても、地元の人には生きていくのに必要だ」と、齊藤は言う。

アトラス山脈の山々に囲まれ、ヒマラヤスギの森やオリーブの林、アンズやザクロの果樹園が広がるフェズは、見た目には2つの街に分かれている。土色の城壁に囲まれ、無数の尖塔がそそり立つメディナと、20世紀のフランス保護領時代に建設された新市街だ。

迷路に潜む見事な建築物

フェズの住民の半数はメディナに住む。「確かに騒々しいが、涼しいし、信じられないほど安全だ」と、齊藤は言う。

そのメディナも、2つに分かれている。中世の姿そのままのフェズ・エルバリ（旧フェズ）と、14世紀に建造された宮殿や庭園が集まるフェズ・エルジェディド（新フェズ）だ。

高い壁が続く迷路のような路地のあちこちにモスクや大学、中庭つきの住居が潜んでいる。先住のベルベル人やアラブ人、ユダヤ人が造り上げてきた建築物は、思わず目を奪われるほど見事だ。

メディナには、2万2000人を収容するカラウィーン・モスクがある。イスラム神学校と大学を併設したこのモスクの存在ゆえに、フェズはイスラム世界有数の宗教と学問の中心地と

なっている。

だが山田絵里（29）にとっては、建物がすべて。町のシナゴーク（ユダヤ教会堂）の修復に携わる彼女は、もう「すっかりこの町のとりこ」だ。

メディナには業種別のスーク（市場）がたくさんあり、道路のあちこちに店や工房が軒を連ねている。何世紀もの間、職人の技は父から子へと受け継がれてきた。その汗の結晶を売るスークもしかり。狭い店には、先進国では失われた職人芸が息づいている。

中世から続く皮なめしの作業は、夏にはたまらない悪臭を発する。だが、エキゾチックな帽子と深紅の民族衣装をまとい、輝く真鍮のカップをぶら下げた水売りが銅細工師や代書屋とワールドカップ談議に興じている光景は、よそにはない。

新品の冷蔵庫を背中に積んだロバを、「タイタニックTシャツ」を着た少年が引く姿は、ここの迷路のような路地でしか見られない。

せめて最初の1歩でも

こんな世界に、斉藤ら海外協力隊の若者は飛び込んだ。頼りは片言のフランス語だけ。異文化への好奇心に燃え、「地元の生活に溶け込む」覚悟だ。

月々の報酬は410ドル。それでも平均年収が1000ドルの国では、けたはずれの額である。

彼らが地元の人たちと一緒に立ち上げようとしている事業は資金不足で頓挫するかもしれない。斉藤自身、下水道の整備が順調に進むなどとは思っていない。「せめて最初の1歩でも踏み出せばいい」と、彼は言う。

古川貴子（26）は、女性に子供服のデザインと縫製を教えている。男性でも職がほとんどないこの国で、そんな技術が職に結びつく可能性が低いことは承知のうえだ。

だが、日本の都会生活に戻りたいと思う隊員はいない。みんな仕事熱心だが、個人を犠牲にした働きバチになる気はない。「今の日本人は、経済という名の自転車をこいでいるだけだ」と、斉藤は言う。「そろそろ自転車を降りて、自分の足で歩けばいいのに」

フェズにいれば、ゆっくり歩ける。女性隊員はモロッコ人から地元の料理を習い、男性隊員は地元チームとサッカーに興じている。地元の友人の家の中庭で、伝統料理をつつきながら人生観を語り合うこともある。

造園デザイナーの榎村吉高は、日本で育った自分がこの町に魅了される理由をこう語った。「仕事はとても大切だ。でも、フェズには人生がある」

[都市データ]

フェズ FEZ

安全度

環境度

生活度

文化度

日本度

人口（日本人数） 98万（10）

物価指数（東京 = 100）66

気候 夏はかなり暑いが、湿度が低くカラっとしている。冬は温暖

資料：コーポレートリソーシズグループジャパン

ニューズウィーク日本版

1998年8月12日号・19日号 P.54